

高学年(4～6年生)によく読まれた本・おすすめの本



『ふしぎ駄菓子屋銭天堂 1～』
廣嶋玲子/作 jyajya/絵
偕成社

幸運な人だけがたどりつける、ふしぎな駄菓子屋。女主人・紅子がすすめる駄菓子は、どれもその人にぴったりのもの。でも、食べ方や使い方をまちがえると…。



『5分後に意外な結末 ①赤い悪夢』ほか、「5分後に意外な結末」シリーズ
桃戸ハル/編 usi/絵 Gakken

笑い、恐怖、感動など、一編一編が違う趣のある最強のアンソロジー。でも、共通しているのは、「短く読めて」「最後に驚愕のどんでん返し」があること。

ひみつシリーズ・新ひみつシリーズ
Gakken

『お金のひみつ』や『地震のひみつ』、『絶滅動物のひみつ』など、科学や社会のいろいろなことを、漫画で面白くわかりやすく説明しています。「まんがでよくわかる」シリーズも。

『学校では教えてくれない大切なこと ポジティブ思考の育て方』ほか、「学校では教えてくれない大切なこと」シリーズ 小豆だるま/マンガ・イラスト 旺文社

自信をもって生きていくには、自分でとことん考え、そのときの自分にとっての正解が何かを判断していく力が必要。学校で教える教科の枠を超え将来にわたって役立つ力を身に付けられるシリーズ。

科学漫画サバイバルシリーズ 朝日新聞出版
子どもたちが様々なことに勇氣と科学の知識で立ち向かっていく冒険物語。



『長くつ下のピッピ』 世界一強い女の子
アストリッド・リンドグレン/作
菱木晃子/訳 岩波書店
『魔女の宅急便』シリーズ ひとり立ち
角野栄子/作 林明子/画
福音館書店

『十五少年漂流記』 サバイバル生活
ジューン・ベルヌ/作 芦部拓/編訳
丸谷朋弘/絵 Gakken

『アオアシ ジュニア版 1～』 小林有吾/著 小学館
愛媛に暮らすサッカーが大好きな少年、青井葦人（あおいアシト）が主人公。



『蒼きSAMURAI 2 世界の左サイドバック 長友佑都』
本郷陽二/編 汐文社

『ピッチの王様 1～4』 ドイツが舞台
ティロ/文 若松宣子/訳 森川泉/絵
ほるぷ出版

『バッテリー 1～5』 野球もい
あさのあつこ/作 佐藤真紀子/絵
教育画劇

ドラえもん科学ワールドシリーズ
藤子・F・不二雄/著 小学館
ドラえもんのまんがと最新の知識＆解説が読める、小学生のための科学入門書。



『ファール昆虫記』 科学への目
ジャン＝アンリ・ファール/原作
古川晴男/文 熊田千佳慕/絵 世界文化社
『10分で読める発明・発見をした人の伝記』 伝記短編集
塩谷京子/監修 Gakken

『宇宙がきみを待っている』 宇宙へ
若田光一、岡田茂/著 汐文社

家読 (うちどく)

家族みんなで本を読もう！



家読(うちどく)とは？

「家庭読書」の略語で「家族ふれあい読書」を意味し、「家族みんなで読書をする事で家族のコミュニケーションを深める」ことを目的とした読書運動のことです。

なぜすすめられているの？

子どもを取り巻くメディア環境が著しく変化し、子どもと家族との会話が少なくなったという現代の社会的問題から、すすめられています。

家読(うちどく)のやり方は？

子どもを中心に家族で同じ本を読み、本の感想を話し合います。週に1回、もしくは月に1回、家読の日を設けることをおすすめします。

どんな本がいいの？

読む本は自由です！ 迷うのであれば、絵本がおすすめです。短時間で家族全員が読むことができ、絵の印象や物語の感想など、語り合う話題に多様性があります。

読んだ後は……

読んだ本を「みきゃん通帳」に記録しましょう。読んだ本を友だちと紹介しましょう。

愛媛県立図書館
子ども読書室・子ども読書支援センター

〒790-0007愛媛県松山市堀之内
TEL : 089-941-1441(代)
HP : <https://lib.ehimetrosyokan.jp>
MAIL : kodomo@libnet.ehimetrosyokan.jp



no image



🏠家読(うちどく)マニュアル📖

家族で話し合っ「家読の日」を決めよう

- ①週1回、2週間に1回、曜日を決める。
- ②「うちどく週間」を決める。
- ③記念日(誕生日・子どもの日・母の日・父の日など……)におこなう。

我が家の家読スタイルを決めよう

- ①家族で同じ本を読む。
- ②それぞれの本をそれぞれのペースで読む。
- ③大人が子どもに読み語りをする。
- ④子どもが大人に読み語りをする。
- ⑤兄弟で読み合う。
- ⑥記念日に家族が主役のために読み語りをする。
- ⑦読んだ本について感想を述べ合う。
- ⑧親が子に本のテーマにかかわる話をする。

図書館に行く日をつくろう

親子で時間を共有しながら、いろいろな本に出会えます。

- ①家族で出かけた後に図書館に寄る。
- ②家読する日の前には図書館に足を運ぶ。

ノーテレビ・ノーゲームで家読をしよう

家族全員の理解が必要です。テレビを消した後の静かで素敵な時間を、ぜひ家読タイムに。

家族の読書体験を語ろう

親や祖父母が、子どもの頃印象に残っていた本や当時の様子について語る。

参考ページ
うちどく.com 家読推進プロジェクト公式ホームページ
📖 <http://uchidoku.com/htdocs/>

「家読」リーフレット作成にあたり、愛媛県内小学校の図書館担当の先生方にご協力くださいましたことお礼申し上げます。ありがとうございました。

掲載については出版社の許諾を得ています。
無断で転載することを禁じます。

低学年(1～3年生)によく読まれた本・おすすめの本



『ノラネコぐんだんペコペコキャンプ』
ほか、「ノラネコぐんだん」シリーズ
工藤ノリコ/著 白泉社

8匹のノラネコたちが思いのままに行動し、大騒動を巻き起こします。「パン たべたいね」、「きしゃのりたいね」。やりたいことを見つけると、やらずにはいられない！最新作は初めてワンワンちゃんたちがキャンプにやってきますが……。



『いちにちなぞのいきもの』ほか、
「いちにち」シリーズ
ふくべあきひろ/作 かわしまななえ/絵
PHP研究所

子どもから大人まで人気の「いちにち」シリーズ。擬音の面白さとユーモア満載の絵で、読み聞かせでも大好評。



『パンどろぼう』ほか、「パンどろぼう」シリーズ
柴田ケイコ/作 KADOKAWA

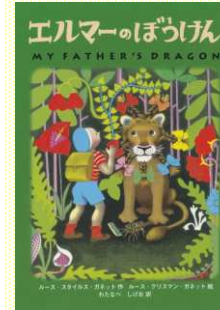
まちのパンやからサササッと飛び出す一つ影。パンがパンをかついで逃げていきます。「おれはパンどろぼう。おいしいパンをさがしとめる おおどろぼうさ」



『おもしろい！進化のふしぎ
まだまだざんねんないきもの事典』
ほか、「ざんねんないきもの」シリーズ
今泉 忠明/監修
下間 文恵、おうちあす華、uni/絵
有沢重雄、野島智司、山内ススム、澤田憲/文 高橋書店

あえて「ざんねん」という言葉を使って、あまり語られてこなかった生き物の「意外な一面」を紹介しています。

『かいけつゾロリ』シリーズ 原ゆたか/さく・え ポプラ社
ゾロリとイシシ・ノシシが繰り広げる、大冒険の物語。悪いことを企んで失敗するけどくじけません。



『ぼくは王さま』シリーズ キャラ立ち
寺村輝夫/作 和歌山静子/絵
理論社
『おぼけずかん』シリーズ とにかく人気
齊藤洋/作 宮本えつよし/絵 講談社
『エルマーのぼうけん』 冒険の旅へ
ルース・スタイルス・ガネット/作
ルース・クリスマン・ガネット/絵
わたなべしげお/訳 福音館書店

『おしりたんてい』シリーズ トロル/さく・え ポプラ社
紳士な探偵が数々の謎を解き明かし、犯人を追い詰めます。



『たんたのたんてい』 探偵モノ
中川李枝子/著 山脇百合子/え
学研,学研プラス
『ぼくはめいたんてい』シリーズ
マージョリー・W. シャーマット/ぶん
マーク・シーモント/え 大日本図書
神宮輝夫,内藤貴子,光吉夏弥/やく
『なんでも魔女商会』シリーズ
あんびるやすこ/著 岩崎書店 お洋服

『ほねほねザウルス1～』カバヤ食品株式会社/原案・監修
ぐるーぷ・アンモナイツ/作・絵 岩崎書店
カバヤ食品の恐竜をモチーフとした玩具菓子が読み物に。



『おまえうまそうだな』ポプラ社
ほか、宮西達也のきょうりゅう絵本
『ざわざわ森のがんこちゃん あたらしいおともだち』ほか、「ざわざわ森の
がんこちゃん」シリーズ 恐竜の女の子
末吉暁子/作 武田美穂/絵 講談社
「がまくんとかえるくん」の本
アーノルド・ローベル/作 三木卓/訳
文化出版局 ぶたりはもたぢ